

各水試発トピックス

オホーツク海のカジカ類の胃からケガニ

水産試験場は、普段から漁業関係者の協力を得ながら調査研究を進めています。時々、調査では把握できないような貴重な情報提供を受けます。2026年5月13日に湧別漁協から、「加工処理した際にカジカの胃の中から、カニが出てきた」という情報提供を受けました。

湧別漁協の湧鮮館で処理されたカジカは、ギスカジカ属の1種(ギスカジカもしくはトゲカジカ、地方名ナベコワシ)であり、その胃の中から出てきたカニはケガニでした。ギスカジカ属の1種は、水深30-60 mに設置した底建網で漁獲され、全長約50から60 cm、体重7 kgでした。このケガニは、雄で甲長約5 cmでした。これまでの知見では、このサイズのケガニは2歳(2024年生まれ)と考えられます。

ケガニを捕食する生物については、直接的かつ具体的な記録はあまり残っていないのですが、北海道東部太平洋で採れた体長26-45 cmのオクカ

ジカの胃内容物から甲長1-7 cmのケガニが観察された事例や、岩手県の太平洋沖でマダラ、アイナメ、ニジカジカの胃内容物から観察された事例があります。これらのことから、底魚はケガニの捕食者であると考えられます。今回、オホーツク海に生息するギスカジカ属の1種もケガニの捕食者であることが示されました。

オホーツク海では、ケガニは水深150 m以浅の海域で水温10℃以下の水深帯を季節的に深浅移動しています。ギスカジカの分布水深は0-60 m、トゲカジカは50-200 mですので、ケガニの捕食者として年間を通じて存在する可能性があります。

最後に、本情報をご提供くださった湧別漁協の皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。

(佐野 稔 網走水試調査研究部)



写真1 ケガニを捕食していたギスカジカ属の1種



写真2 胃の中から出てきたケガニ

各水試発トピックス

令和 8 年度水産研究本部成果発表会を開催しました

2026年6月30日（火）、札幌市のかでる2・7において、水産研究本部の成果発表会を開催しました。今年度は開催テーマを「激変する北海道の海－変動を知り、適応するために－」として、前半はかでのホールでの口頭発表、後半は展示ホールでのポスター発表の2部構成で実施しました。

口頭発表の部では、星野本部長による趣旨説明に続き、各水試で得られた成果6題（表1）を発表しました（写真1）。ポスター発表の部では、口頭発表6題を含む成果17題（表1）を発表し、担当研究者と参加者との間で意見交換を行いました（写真2）。

今年度の参加者数は313名（会場：183名、オンライン：130名）でした。この発表会を通して、調査研究の重要性への理解がより一層深まること、さらには水産業の発展に役立つことを期待します。



写真1 口頭発表会場（かでのホール）



写真2 ポスター発表会場（展示ホール）

（三原行雄 水産研究本部企画調整部）

表1 発表課題一覧

口頭発表&ポスター発表			
1 豊穡の北の海は今	中 央 水 試	栗林貴範	
2 極寒の海でオットセイをさがす	稚 内 水 試	堀本高矩	
3 回帰したサケの生き残り条件を探る	さけます内水試	越野陽介	
4 ホッケの資源変動の仕組みに迫る	函 館 水 試	山口浩志	
5 コンブの夏バテ対策!?	中 央 水 試	川井唯史	
6 網走湖ヤマトシジミの産卵・成長・資源を長期に渡って探る	さけます内水試	渡辺智治	
ポスター発表			
1 トドと沿岸漁業のこれからを考える	中 央 水 試	神保美渚	
2 ブリの年齢から北海道への来遊資源の実態に迫る	函 館 水 試	富山 嶺	
3 赤潮を予察して被害を減らす	中 央 水 試	嶋田 宏	
4 サケ稚魚にとっての適水温を探る	さけます内水試	虎尾 充	
5 高水温に強いサクラマスの開発に向けて	さけます内水試	池本恵祐	
6 海域またぎのリレー養殖で大型サクラマスをつくる！	裁 培 水 試	山崎哲也	
7 海面サーモン養殖での病気被害低減に向けて	さけます内水試	勝又義友	
8 暑い夏を乗り切るホタテガイ稚貝の育成方法	函 館 水 試	水上卓哉	
9 小型海藻から生まれる新たな産業	稚 内 水 試	前田高志	
10 小骨を気にせず食べられる!?	釧 路 水 試	奈須亮耶	
11 マフグの美味しさを科学する	網 走 水 試	藤田真伍	